

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人燦燦会 さぼーとハウス和音 保育所等訪問支援事業		
○保護者評価実施期間	R7年2月20日		～ R7年3月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 22件
○従業者評価実施期間	R7年2月20日		～ R7年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8件
○訪問先施設評価実施期間	R7年2月20日		～ R7年3月7日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	11件	(回答者数) 10件
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士が常駐しており、発音や構音などの事や嚥下の事など、すぐに聞ける環境にある。また、PTやOTとの関係も良好で、疑問に思ったことなど、しっかりと質問して、そのまま訪問先に伝えることができる	今日何をしたのか、どんな反応をしたのか等、専門的支援員とのコミュニケーションをはかっている	専門的支援員が保育所等訪問支援事業に行くことで、専門性を高めた保育所等訪問支援を行っていく
2	1人の職員が行うので、前回からの比較など継続的支援を行える。		信頼関係の構築に努めて、訪問期間や方針をしっかりと伝えて、次回の支援に努めていく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員が担当しているので負担が大きい。	人員不足、経験者不足	新人育成をしっかり行っていき、一緒に保育所等訪問支援に行ったり、職員全員がいけるようにしていく
2	子どもによって、本当に保育所等訪問が必要なのか、見直しが必要。終了の曖昧さがある	保育所等訪問支援の理解がまだ定着していない。成長していくにつれて訪問期間が長くなっていく。毎年、事業所の職員の移動や、担任の移動などもある	目標・訪問の取り組みを毎年誰が行ってもわかるようにマニュアル化していく
3			